

NEWS HIGHLIGHTS

大栄サービス

廃棄飲料をバイオマス燃料に加工する専用施設が稼働

総合リサイクル事業を展開する大栄サービス（兵庫県西宮市）は、賞味期限切れなどで廃棄される清涼飲料水を専用に管理・保管し、バイオマス燃料に加工するための前処理機能を備えた施設「リバース・マネジメントセンター」を西宮市内に新設し、今年3月より稼働している。廃棄飲料を専門に保管・処理してバイオマス燃料に加工す

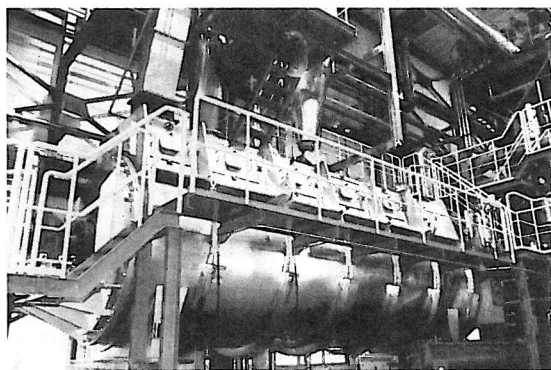
るのはリサイクル業界では初の試みといい、すでに8月末までで約1,200トンの処理を行なっている。

同社では飲料メーカーから委託されて廃棄飲料を運搬、保管、処理する。廃棄飲料を同センターに集約することで、リサイクルのための前処理を効率的に行なえる。具体的には、前処理として段ボールなどの梱包資材と廃棄飲料に選別し、廃棄飲料は製品のまま破碎処理設備にかけられ、中身の液体と容器（PETボトル、缶、紙容器、ガラスびんなど）に分離される。その後、破碎された容器は品目別にリサイクルされ、液体は汚泥や食品残さ等のその他の有機性廃棄物と混合し、乾燥設備によって固形状のバイオマス燃

料に加工される。このバイオマス燃料は、有機性廃棄物100%が原料のカーボンニュートラルな燃料であり、ボイラー燃料として利用することができる。

同センターの保管面積は195㎡、保管容量は585㎡で、これは2L PETボトルで約30万本、190g缶で約300万本の保管が可能だという。一方、周辺への環境対策として脱臭装置を備えるとともに、廃棄飲料の施設外への流出を防ぐため24時間のセキュリティ体制を構築している。なお、同社ではISO14001の認証も取得している。

飲料メーカーでは、廃棄飲料が物流センターや倉庫のスペースをとるといった流通経費が掛かっているが、処理を委託すれば倉庫の回転率を向上できるメリットもある。一方、同社では廃棄飲料の運搬から最終的な燃料加工まで、一貫したサービスを提供することで、メーカーの不良在庫削減とリサイクルに貢献することを狙っている。詳しくはリーダーサービスカードNo.592で。



▲廃棄飲料をバイオマス燃料化する乾燥機